

小説に描かれた仙台の下水道～ 『ゴールデンスランバー』

仙台市太白図書館
村上 佳子



しばらくお休みさせていただいておりました。その間に、仙台文学館から太白図書館に勤務先がかわり、多くの本とそれを利用される方々の中にぎやかな毎日を過ごしております。久しぶりの寄稿は、仙台の下水道が登場する作品をご紹介します。ご存知の方も多と思いますが、仙台市在住の作家・伊坂幸太郎さんの『ゴールデンスランバー』です。2007年秋に出版され、その年の本屋大賞（全国の書店員によって選ばれます）と山本周五郎賞を受賞、さらに直木賞をご本人が辞退するといった話題もあり、全国の書店でベストセラーにランクされました。当図書館でも大変な人気で常に順番待ちの状況です。



伊坂幸太郎『ゴールデンスランバー』新潮社
2007年11月

出版から2年を経て昨年公開された映画は、オール仙台ロケで1000人を超える市民エキストラが活躍したことなどから、地元仙台で大いに盛り上がりました。ご記憶の方もいらっしゃるかと思います

が、主人公が仙台市内を走る下水道を逃げるシーンがクライマックスとなり、本物の下水管でロケが行われました。

地質調査業協会の皆さまはご専門の方も多いかと存じますが、この下水道について少し触れてみたいと思います。作者の伊坂さんは、作品を書くにあたり実際の下水道を取材されています。仙台市の下水道事業担当者の協力を得て、懐中電灯をたすきに掛けてマンホールを降りていったそうです。長町付近の雨水管の中を歩きその暗闇と湿気を体験されたとのこと、主人公が逃げ切る最後の場面はその体験からイメージをふくらませていったのでしょう。

映画のロケに使われたのは、伊坂さんがもぐった下水管ともうひとつ別のれんが下水道です。中村義洋監督が、明治30年代から現在も使われているこの歴史ある下水道のことを知り、そこでの撮影を熱望され実現したとのこと。



映画の撮影に使われた「馬蹄形煉瓦下水道」

昨年11月に、歴史的に重要な土木構造物の保存などを目的に創設された「土木学会選奨土木遺産」に認定されたこのれんが下水道は、西公園から定禅寺通を東に進む延長540mの「馬蹄形煉瓦下水道」で、大人ひとりがやや腰をかがめて通れるくらいの広さです。

仙台市内にはこのほかに同時期に作ら

れ、いずれも現役の「矩形煉瓦下水道」(青葉区一番町)と「卵形煉瓦下水道」(青葉区片平)があり、ともに今回の土木遺産認定を受けています。

さて『ゴールデンランバー』は、就任したての金田首相が仙台市内をオープンカーで凱旋パレードをるところからはじまります。そして突然の爆発音、続く車の炎上、主人公の青柳雅春は周到に計画された首相暗殺の容疑者にしたあげられ、逃亡劇が幕を開けます。

ここで主な登場人物を紹介してみましょう。

青柳雅春：

首相暗殺の濡れ衣を着せられ逃亡を続ける主人公。元宅配ドライバー。

樋口晴子：

青柳の学生時代の仲間で元恋人。現在は別の男性と結婚し女の子の母。

森田森吾：

青柳の学生時代の仲間。妻が作った借金に苦しみ危ない取引に応じる。

小野一夫：

通称カズ、青柳たちの後輩。青柳をかまくまい切れずに危険な目に合う。

轟親子：

花火工場を経営する父とその息子。青柳たちが学生時代にアルバイトをする。

キルオ：

連続通り魔と思われるなぞの男。青柳の逃亡をなぜか助ける。

岩崎英二郎：

青柳が勤めていた宅配の先輩ドライバー。

保土ヶ谷康志：

骨折で入院中の裏稼業の人物。下水のマンホールのレプリカを持つ。

凜香：

アイドル女優、かつて宅配ドライバーの青柳に助けられる。

物語は、大きな国家的陰謀が見え隠れする中、これまで関わってきた人物たちとのエピソードをちりばめつつひたすら逃げる主人公・青柳の姿を追って進んでいきます。

「人間の最大の武器は、習慣と信頼だ」
「俺にとって残っている武器は、人を信頼することくらいなんだ」

信頼という言葉がひとつのキーワード

ともなり、超一級手配中の犯罪者は逃げる先々で助けてくれる人物に出会います。やがて夜の勾当台公園で警察とのバトルの後、マンホールにもぐる青柳、そして夜空に大輪の花火というクライマックスを迎えます。

ハリウッド映画を意識して書いたというこの作品は、まさに映画と同時進行で私の記憶に残っています。

伊坂さんの原作では、仙台市内の実際の場所は確定させていませんが、映画では仙台市内のあちこちが登場し、「ここは家の近く！」とか「あの店はいったことがある」といった興味が先にたち、ストーリーを楽しみそびれたといった声もきかれました。

私も本を読み、劇場に出向き、さらにDVDも購入して再度楽しみました。宮城県内で発売されたDVDには、「宮城特典」として映画撮影の現場風景や仙台市内の様々な様子、市民エキストラのエピソードなどが満載の付録DVDがつけました。パッケージが宅配用封筒のデザインになっているのも納得です。

下水道は、あまり日の目を見ることのない地下のライフラインですが、各種マスコミにも取り上げられ、昨年の仙台市では大いに見直されたようです。映画の撮影で使われたマンホールの蓋は実際に仙台市のデザインそのままに精巧なレプリカが作られ、下水道フェアなどのイベントでも紹介されました。また、仙台文学館の常設展示室にも展示しておりますので、是非ごらんいただければと存じます。



DVD「ゴールデンランバー」
アミューズソフトエンタテインメント 2010年8月